

ああ、もう明日から
怒られへん!

いよいよ、最終号。あつという間の3年やったねえ。集会の度、そして、この Be Aggressive でも、毎号のように怒ってばかりやったなあ。「お前は怒りすぎや」と言われたこともあったなあ。君たちもきつと、そう思ったたやろうねえ。やっぱり怒られるのは、嫌か？ 泉陽入学までは、褒められこそすれ怒られることは、あんまりなかったやろうからねえしかし、

「人間、怒られて、
叩かれて、なんぼ」や。
失敗したり、
間違ったりしても
何も言われんように
なったら、
終わりやで!!!

世間では「褒めて育てよ」なんて、もつともらしく言う人がたくさんいるが、そんなもの、うそつばちだ！ そんなもんで、人間が育つはずがない!!! と僕は思っている。
人は、失敗して、叱られ、頭をどつかれ（物理的にではなく）て、刺激を受け、様々なことに気づき、成長



大阪府立
泉陽高等学校
69期担任団
2017年
平成29年
2月28日
(火曜日)
第20号
最終号



するんです。

確かに褒めることも必要だが、それ「だけ」では、骨太な芯の強い人にはなれない。耳触りのいい言葉は、気持ちいいかもしれないが、それでは強さは身に付かん。だから、失敗した時、ちゃんとできていない時に、怒ってくれる人、文句を言ってくれる人の言葉を謙虚に受け止めることが大切なんや。いやなことと言ってくれる人が大切なんや。

誰でも、調子のいい時には、放っておいても、がんばれる。うまくいかん時、しんどい時にどうするか、その人の値打ちや。そんな時にがんばれる強さを持ち、困難に負けずに立ち向かう人にならなアカンのや！ でないと、自力で幸せをつかむことはできん！

何度、卒業式を迎えても、1000日以上積み重ねてきたはずなのに、いつも突然その日がやって来たような気がする。
いつか書いたことがあったよね。「未来」は永遠に続くように感じ、「過去」は一瞬のできごとになる。これは、本当に僕のこの歳になつての実感です。君達の「未来」は前途洋々だが、「永遠」じゃない。限りある人生を輝かせ、何が何でも幸せをつかみとつてくれ。行き詰まったら、いつでもおこで。

泣くまで怒ったるで!!!

ただ、「おめでとう」と言つて、送り出してあげないといけない卒業式の日にも、また説教してしまつた.....

それじゃあね、
GOOD LUCK --
GO FORWARD --

(Pretend A killer of Full covered)

卒業生のみなさんへ

皆様、ご卒業おめでとうございます。無事卒業の日を迎えられうれしく思っています。ご無沙汰しておりますが、私の方もなんとか元気に仕事を続けております。私の気持ちを少しお伝えしたいと思います。



たいていの人の人生には自分の努力だけでは、乗り越えられないと思える、いろいろな苦難が待ち受けていると思つています。けれど、自分一人では、これ以上強く生きられないと感じる時も、自分の周りには、身内の人や友人などがいます。

身内だから、友人だから必ずしも助けになつてくれるとは言いきれませんが、助けを求めると意外と手を差し伸べてくれる人がいるものです。自分の気持ちを黙つていては、なかなか分かつてもらえませぬ。困つた時は、意地や見栄に心が支配されないう気をつけてください。それから、相田みつをさんの言葉に

私がこの世に生まれしてきたのは、
私をなげけおぼろけしない仕事、
なにかをひひく

この世に生まるからだ

というのがあります。

この言葉をはなむけに贈ります。あなたにしかできない仕事を見つけ、

どうぞ健康に留意され、ご活躍下さい。
(田原 英子)

”今“を大切に

六十九期の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私自身、この3年間、本当にあつという間でした。皆さんはいかがだったでしょうか？ 日々の授業は勿論、体育祭、文化祭、修学旅行等いろいろな経験をし、様々なことを学んだことと思います。

さて、これから皆さんはそれぞれの道を進んでいくこととなります。これからは「勉強」という面だけではなく様々な場面において「学ぶこと」が明確に用意されているわけではありません。そのため、先が見えないことを不安に思ひ、悩んでしまうことも少なくないでしょう。でも、みんな”どうすればいいのかわからない”を知っているわけではないのです。”今”と向き合い、手探り状態で進んでいくものなのです。少なくとも私はそうでしたし、今もそうです。ですから、今”しか出来ないことに夢中になつて下さい。その過程で今まで見えなかった景色がうつすらと見えってくるのかもしれない。そして、たまには高校時代のことを思い出してみるといい気分転換になりますよ。



皆さんなら大丈夫ですよ。皆さんの今後のご活躍をお祈りしています。3年間ありがとうございました。
(今は解散したけど.....、いすつちです)

「2年7組の皆さんへ」

▼1年前の「Be Aggressive」で「1年3組の皆さんへ」というメッセージを書きましたので、続きを書こうと思います。

この卒業式で1組の呼名のときに流してもらおうBGMは、実は担任の私が勝手に決めました。東日本大震災の原音の影響で地元に住めなくなり、同じ中学校に通っていた仲間と一緒に卒業できなかった

人をもって、福島県の中学校の音楽の先生が作った曲です。「今、旅立つ日、見える景色は違っても、遠い場所で同じ空、きつと見上げているはず」というフレーズを聞くたびに思い出すのが、去年担任した2年7組です。

2年7組はいろんな事情を抱え、学校に来れない人が多いクラスでした。正直言って朝の8時に行くのが憂鬱な日もありましたが、学校に来ていない人が元気が無くなるようなことになってはいけないうと思ひ、授業も行事もみんなと一緒に楽しもうと決めました。

勿論そんな話を7組の人にしたことはありませんでしたが、何となく気持ちに通じているような実感はあり、授業もグアムも文化祭も楽しかった。他のクラスよりずっと人数は少なかったけれど、クラスマツチも大健闘し、合唱コンクールは涙が出ました。私の中では7組がダントツの1位でした。

残念ながら2年7組は全員が卒業とはいきませんでした。が、今日卒業した人もそうでない人も、それぞれの場所で精一杯生きています。

「3年1組の皆さんへ」

1組はクラス替えの段階で、成績優秀な人が多いクラスと言われていました。

そういうクラスを担任するのは実はやりにくいことが多いのです。しかし、1組は皆さんで頑張ろうという雰囲気最後までありました。そして、人の話をちゃんと聞ける人が多かったように思います。

「人の話を聞く」というのは、実は非常に難しいことです。大人でもそれが出来ない人はたくさんいます。しかし、どんな人からも人間は学ぶべきことがあります。人によって態度を変えたり、自分にとって得な人としか付き合えない人は不幸です。

いつも謙虚な気持ちで人の話に耳を傾け、いろんなことを感じてください。その中で、様々なことに感謝するとはどういうことか見



えてくると思っています。

卒業式で皆さん一人一人の名前を呼ぶのはとても緊張します。名字はともかく、名前は親御さんが子どもの幸せを願いながらつけた尊いものです。私も3年1組全員のこれからの人生に幸あれ！の気持ちを含めて、名前を読もうと思ひます。

(アドルフ・ブッシュ・弦楽四重奏団)

人生 遠回りも……

この3年間は自分の人生を振り返って、間違いないくもつとも楽しい3年間でした。

学校の教員になりたいと30歳を過ぎてから思い立ち、大学に編入学して、教員免許を取得しました。

実は、長男が産まれた時は無職(大学生)でした。

人生で初めての担任が、1年4組でした。2年2組と行った修学旅行も、3年2組での文化祭での模擬店、応援に行つたゼンター試験も、すべてが教員として初めての経験で新鮮でした。

一生忘れないと思ひます。

僕の人生は大学受験では浪人し、就職したけど転職し、教員採用試験も1回落ちています。遠回りばかりで、全然お手本になる経歴ではないですが、みんなと出会えて本当に良かったです。今までの遠回りが無ければ出会えなかつたと考えたと

遠回りも無駄じゃなかつたんだな

と思ひます。

みんなはこれからの人生で道に迷つたり、悩んで立ち止まったりすることがあると思ひます。そのときは「あんなに遠回りした人もいたし、まあいいか」と思つてくれたら、本望です。

追記 学校の教員は面白いですよ。やりたいことが決まらない人どうですか？

(なぜか名字にかたかなが、それも大きいんだか小さいんだか)



出合いの奇跡

地球上に今さ、人口って何人いるか知つてる？

63億人いるの。

63億人に1人に1秒しか会わなくても180年かかるの。

それを俺たちどう？

出会つて、5分以上経つてる。

奇跡！

乾杯！

これは、とある芸人が飲み会の乾杯のときに言うものです。あまゝい言葉で異性の気を引くためのものでありますが、私は共感する所が有ります。



私共感する所が有ります。

出会つたことは、奇跡です。

今までの出合いの全てが奇跡。いろんな友達に出会つたこと。

先輩、後輩に出会つたこと。いろんな先生たちに出会つたこと。

話したこと。

泉陽高校に入って3年間過ごしたこと、学んだこと、その全てが奇跡。

これからも、たくさん奇跡的な出合いがあり、その出合いのひとつひとつに、あなたを成長させるチャンスが潜んでいることでしょう。

人と人は出合い、

お互いに高め合うことができる。

出会つた奇跡を大切に。

奇跡を無駄にしないで、これからも大いに成長していつて下さい。

君たちならできる。

そう、信じています。

改めまして、69期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日の日を、皆さんと共に迎える

ことができ、嬉しく思ひます。

泉陽に入つてよかった、つて思つてくれてると、もつと嬉しいです。

私事ではありますが、この4月から大阪を離れます。69期生は最初で最後の泉陽の卒業生。本当に君たちと出会えてよかった。この出合いは、私のこれからの人生の糧となることでしょう。

皆さんの感動と思ひ出を、ありがとう。

(トノのに貴方は四国に行くの、

阿波の踊りははそれほどのいいの?)



「はしなくも花発つ春に なりにけり」

▼「絆は、キズナであり、絆(ほた)し(束縛)でもある。その結び目が解き放たれた今日。

「まだ卒業したくない」か、楽しかつたんやなうん、これからもつと楽しくなる。出合いがある。恋もできる。あなたの笑いや優しさを求めている人は大勢いる。ケンカも失敗することもあるかもしれないけど、どこにいても、仲間を大切に、もつと周りを楽しくしていこう。

あるいは、「やつと卒業や！」と、早よ校門を出たいか。しんどかつたやろ、よくがんばつたなあ。嫌なことでも踏ん張つてやり続けたことも経験。これからどこにでもいけるよ。一人でやつてきたんや、とは思つちやいなだらうけど、近い人を大切に、居場所を整えていきな。

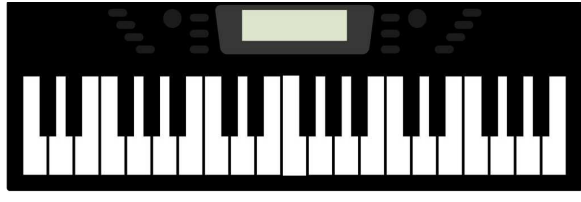
▼『ぼくを探しに』シルヴァスタイン作・倉橋由美子訳という絵本がある。「さあいくぞ、足りないカケラを」と自分の欠けた一部を求めて次々に色んなものに出会ふ。人間は生きていく限り足りないものを探し続けるんだな、という向上心に読み替えてもいい。疑問をもつことが大事、とも。けど、家庭を築いて、働き続けて……もう自分なんて別で、探すものではないんだ、と自分探しを卒業した大人になってこそ、その後の展開に納得する。ゴロゴロ転がり続けて見つけたカケラで自分を埋めても、全体の形が整わなくなつてくる。どうもつとまなく進めなくなると、

得たカケラをそつとおろして、また転がっていく…。厄介やな、いつも思う。ひとつってみんな、正しいと思ってる事が違う。これからの人生、失敗や挫折なんてザラにある。信じていた人に裏切られることも残念ながらある。夢の全てが叶うわけでもない。負け犬、って言葉に自嘲する時も。何が不安で何が足りないのか解らないまま流れて、悩んで、つてほんとはそう。それでも、思つたより自分は弱くはないから。愚直に向き合つて、その時にできることをやっつけていればいい。躍つて、泳いで、歌つて、走つて、弾いて打つて投げて、作つて書いて読んで、泣いて笑つて、転がっていれば、まあなんとかなるわ。大体は。



▼この3年間の思い出はたくさん。でもいつも、ここにいない子たちの顔が浮かぶ。新しい道に行ったんだ、と言いつながら今日まで後悔ばかりだった。元気にしているといいな。だからこそ、69期生の日々を今日まで見届けられたことが尊い。クラスの合唱のためにキーボードを家から持ってきたその厚意。「互いに競えるライバルがほしい」というその熱意。「オレの言つた『大丈夫』は、やっぱり大丈夫やつたでしょ」と言つたその頼もしさ。一人一人のええとこに毎日気づけて、めっちゃ楽しかった。うらやましかった。よしッがんばろつて思えた。だから、さみしいはずやわ、きつと特に今日は。

▼はじまりと終わりがあつて、その間に出来事があれば、それは物語となる。物語の続きは自分の手で紡いでいける。



人生は一度きり。悲しさを怒りに変えず、毎日一つでも気づきを見出せば、きつとわくわくする世界が広がっていくよ。おもしろがついていっつ。卒業おめでとう。あなたが「教師」を必要とする時、それでもいいけど、今度どこかで会う時は、友人として会えたら一番うれしいな。

あなたの常識は世界の非常識

これは、大学生の頃、外国語・異文化研究を専攻する私たちに、大学の先生が何度となく言つた言葉です。自分にとっては疑うことのない常識さえ、広い世界では「絶対的」なものではないのだ。そして、先生方が言つてくれたもう一つの言葉「無知の知」。世の中に学ぶべきことはたくさんあるのに、自分はすでに知つているつもりになつていて。自分が本当は無知であることに全く気がついていない。これではダメだ。自分はまだ何も十分には知らないのだということを「知れ」と戒めてくれたのです。

世界は自分が思つているよりはるかに広くそして深い。様々な、自分には思いもつかないような考え方や、生き方をする人もたくさんいます。ですからこの世界を知るためにそしてその中でより「幸せに生きる」ために(69期のテーマです)、大いに学び、かつ学び続けよう。そして、人と接する際には、自分の思い・立場だけでなく、相手の身になって考えることを意識しよう。自分と同様相手にも、みんなそれぞれの「常識」があるのだから。「Dragon Night」にあるように。

Everybody has their own version of what's just ... even the people that fill me with hate Have their reasons to live their life that way

最後になりましたが、69期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。泉陽高校でみなさんと過ごせた3年間、本当に幸せでした。4月からは、自分で選び取つたそれぞれの進路に向かって…

Spread your wings!!
Broaden your horizons!!
（な）迎（む）着（つ）た（ら）ら
（な）難（な）波（な）の（は）
ず（れ）れ（）世

「めんどくさい」
・
「楽しい」



君たちへのはなむけの言葉は、他の先生方から充分に送られてきていることと思いますので、場違いかも知れないですが、あえて最近思うことを書きます。私は「存じのとおり、自分の母校でもある泉陽にこれ18年もいることになりました。この間、時代の移り変わりとともに、生徒も変わってきました。そんな中で私が残念に思うのは「音楽の授業がめんどくさい」という生徒がここ数年増えてきていることです。

その「めんどくさい」にはいろいろな意味があるようですが、個々に聞いてみると「テストの時、人前で歌うのがめんどくさい」「研究発表で何をやるか考えるのがめんどくさい」「作曲なんて、とてつもなくめんどくさい」などのようです。いや、実は音楽の授業だけではない。最近では文化祭や体育祭などの準備段階ですら、ちらほらこれに類する言葉を聞くことがあります。

こういう言葉は、以前は全くと言つていいほど、聞くことがありませんでした。(生徒たちは秘かに思つていたのかも知れませんが。)ではこの「めんどくさい」の真意はどこにあるのでしょうか。常に受け身の姿勢であるあまりに「自ら考え、自ら動く」ことから逃げようとしていている気持ちの表れではないでしょうか。音楽に限らず、芸術の授業では「自ら考え、自ら動く」ことが常に求められます。いわばそのための訓練

として、高等学校に芸術という教科があるのです。この「自ら考え、自ら動く」ことは、大学へ進学し、また社会へ出るとますます求められるようになります。言い換えると、社会で生きてゆくということとは「めんどくさい」ことだらけです。

「めんどくさい」ことから逃げてばかりの人は、人生を楽しみむことが出来ません。

「自ら考え、自ら動く」ことを実践し続けてください。そうすれば「めんどくさい」が、いとも簡単に「楽しい」に変換され、心の底から人生を楽しむことができるようになるでしょう。

追伸：フランス語検定は準2級に無事合格できました。君たちが頑張つていて姿に励まされた結果です!

(メルシー)ホークー僕、
一芸あります)



あした天気になあれっ

気象庁や民間の予報会社も予報業務の自己採点を行つています。どれだけ当たつたのかを調べるのです。「降ると予報して外れた時を」空振り」といふそうです。「降らない」と予報して外れたときは「見逃し」。「降る」と予報して本当に降つた時だけが「当たり」です。ところが、「晴れ」の予報が当たるといふ圧倒的に多いケースはカウントしません。このように自らの仕事により厳しいスコアをつけることで問題点を見出し、その精度をさらに高めようとしていっているのです。

また、この予報精度ですが、4月に低くなる傾向があるそうです。理由は人事異動。天気は地域の複雑な地形等が大きく影響します。その地に暮らすお百姓さんや漁師さんが永年の経験を元に、近くの人に現れる特徴的な雲や、風向き等から敏感に天気の変化を察知して行動を決める、というのはよく聞く話です。スーパーコンピュータが弾き出す数値だけで天気予報を行うことは不可能で、現場での経験を基に失敗を重ねながらもその精度を高めているのです。

さて、皆さんも4月からは新しい環境でそれぞれ頑張っていくことになり。今までの経験で得たいろんな力を駆使して、自らの目標に向かい、さらに大きな力を身につけていって下さい。

これからの人生、自らの努力で良い天気に恵まれる日もあるでしょう。自らの行いに全く関係なく、荒天に行くと手を阻まれてしまうこともあるでしょう。



目標に向かって突き進むも良し、しばし雨宿りをするも良し。止まない雨はありません。一步、しっかりと大地を踏みしめながら歩いて下さい。心から応援しています。

「学」「変」「楽」「真」?

・大学の卒論卒業論文は、林竹二についてでした。彼はソクラテスの研究者でしたが、宮城教育大の学長就任を機に、小中高で授業実践を重ねて行きました。彼の言葉に「学ぶことと変わる」というのがあります。勉強とは単に知識を増やす事ではない！自分が変わった瞬間を味わったことがありますか？そういう「学び」も、これから行っ

てほしい。
・人生の苦境はいつか訪れるもの。その時人が救ってくれることも、「樂即ち「楽しみ」が助けてくれること。私の場合は音楽、武満徹の世の不条理を表出したかの如き不思議な響きとモーーツアルトの清々しい楽音に救われた。退職後は音楽三昧の日々を送りたく。

・音楽の本場はウィーン。毎春ニューイヤークンサートが行われる楽友協会(MJ)クラフエライオンホールはそれは、素晴らしく、金の女神像がしっとり立ち並び、響きも最高。ドレスデンのゼンパーオーパー(国立歌劇場)は、英軍空襲の全壊から再建を果たし、内装から音響からオーケストラまで至美。プラハのスメタナホール(市民会館)は外観がイルヌト、街もホテルも劇場も粋！ぜひ、現地に行きましょう。



・現地と言え、パリ的美術館。何処も逸品揃い。就中オランジュリはモネの大壁画が八面市立美術館にはデュファイの、パリから数時間、ジベルニーにはモネの花壇と睡蓮の池。ウィーン的美術史美術館にはブリュゲルの部屋、農民達が楽しく踊る名画が、余りに古く門外不出。英のストーンヘンジもぜひ。何れも日本には来られない!!

・落語も狂言も楽しいもの。でも常席や能楽堂でホールではオリジナルの味損なわれず。歌舞伎も江戸の歌舞伎座が難波の松竹座で、音楽も専用のホールに限り。私

・そうして現地でほんま、もんに出逢って欲しい。私も猿之助先代と仁左衛門丈を観るまでは、歌舞伎は好きになれず。音楽も絵画も芸能も、本物や名人は違ふ。勘三郎(先代)の早逝(私の一つ上)も惜しまれてならない。時間には掛かるが、本物や名人を知った時の恍惚は、他に比するものがない!!。その知は人生を味わい深くする。

・本もそう。なかなか自分に合う、好みのいいものには出会えないものだ。四十を過ぎてようやく気がついた。ポスト・トウルースの時代だと言う。難しい時代になったものだ。世界はますます混沌として来ている。そんな時代にいよいよ「真実」や本物を見分けがたい。しかし、新たな旅立ちの日に贈ろう。

「現地に行け! 本物に出会え!」

そして、人生をふかく楽しめ!
(市川五右衛門)

進路指導部より

私たち教員には、必ず数年に一度転勤があります。次にどの学校に行きたいか、「家の近くがいいなあ」とか、「このクラブが盛んな学校がいいなあ」とか、「人間関係がいい学校に行きたいなあ」……など、希望は誰にでもあるのですが、希望通りにいくことはなかなかないのが実態です。

私は泉陽高校に勤めるまで、大学に進学する人が殆どいない学校に勤めていました。いわゆる「ヤンチャ」な子が多い学校です。私にはそういう学校が合っていると思っていましたし、自分の勤めている学校が好きでした。しかし転勤してきた人にとって、私の学校で働くことは不本意であることが多かったようです。そして嫌々転勤してきた人にも2つのタイプの人がいました。いつまでも学校に馴染もうとせず文句ばかり言っている人と、気持ちを切り替えて新しい環境で頑張る人の両方を私は見てきました。

「自分の能力を生かす場所はここじゃない」という考え方は非常に傲慢だと思います。能力を生かしてくれるのは場所ではなく、自分です。それは大学も同じ。たとえ不本意で入った大学でも「ここが今の自分の居場所なんだ。ここで頑張るしかないんだ」と思えばきつとたくさんいい出会いがあり、そこから将来の可能性も無限に広がります。自分の足を固めていない人が夢や理想を語ってもそれは所詮空想です。

この3年間、進路指導室でいろんな人の話を聞きました。一生懸命やっているけれどなかなか結果に結びつかなくて涙する人も少なくありませんでした。結果が出なくても一生懸命頑張る人は、どんな場所においても前向きに努力できる人です。そんな人は必ず幸せを掴むと私は信じています。

「進路を考えるのは、就職するまで」と思っている人がいるかもしれませんが、とんでもない。自分が職場でどう働いていくか、周囲の人とどんな人間関係を築いていくか、何を生きがいにしていくか、これらはすべて、一生ついて回る課題です。もちろん、そんなことを考えずに生きていく人もいます。が、「よりよく生きていく」ためには、考え続けなければなりません。その中で自分にとって大切なことがきつと見えてくると思います。(苦難を乗り越えて)

林太郎の蹉跎

林太郎とは森林太郎のこと。森林太郎と言っても森林太郎ではない。森林太郎、即ち文豪森鷗外の本名である。彼の蹉跎とは何か? 鷗外は早熟の秀才で、東大医学部に年齢を偽り入学する。無難な上である。しかし世間は広い。卒業時、首席はおろか、7/28であった。同窓の助言で陸軍軍医に。ドイツ留学地帯で、恋に小説「舞姫」になるが、その蹉跎は措き、当時軍の悩みは脚気、多く兵がこれに死んだ。対策を迫られた森は細菌説を採り、白米摂取を推奨。今からすれば真反対。ビタミンB1欠乏が病因で玄米こそ有効なのに……。海軍はいち早く経験則で克服したが、陸軍は長々苦しむ。その元凶が森だった。ここで考えるべきは、なぜ彼と陸軍が誤ったかである。背景は二つ。学閥と権威。彼は医学部、ビタミンB発見の鈴木梅太郎博士は東大農学部、森がドイツで就いたのは細菌学の権威コッホ。彼が脚気細菌説を唱えていたのだ。加えて英国を範とした海軍への対抗意識もあった。愚かなことである。これにより幾多の兵が戦地で脚気に倒れ亡くなっている。誰の為の学問か、何の為の研究か、見失ってはいけない。卒業を機に、文豪蹉跎の教訓を君たちに贈る。他方、そんなものに全く囚われない我が漱石先生と君たちの大先輩島田さんは、ふれず己の信念に従って、我が道を行かれかよなる愚かしい蹉跎は、一切遺されませんでした。学ぶべし! 二人! (阪神五穀豊穰米広げ隊)

折々の花、折々のうた



桜にはまたまた早いですが、みなさんの合格を祈念して聖盟の句を最後に贈ろう。桜はほんに此国の人々の気性に合致。弥生末から卯月に掛けて、人はこの花の下に集り、語り歌い飲みして、北国では皚月にもこの花は舞う。卯月、みなは桜と何を思っているか。喜に満ちた顔か、それとも捲土重来を期す凛たる顔か、それとも君を觀て、還つて来るのを待っているか、(当世馬尚) 編纂後記「いよいよ最終号道々いろいろ考えた」身内を喪つ悲は十代で教を喪つ悲は二十代で彼の進学先を恨んては四代、何事も二十代、進路を手に十七年が経つて先の本読むは四代、何の先生? 家族のゆつたりした幸は五十五代、子受験が終わつてから「保護者の皆様もこれからです」死の恐怖は四十四代、連れ合いが居くれた旅の樂と喜も四十四代、教つた方に先日自著を頂いた! 欧州と共に旅した弟は現在リビリ奮闘中! 日本酒の味は五十五代、教え子に連れられた店、温泉の有難味も四十四代、同僚の温泉博士に教わった! クラシック談義、一師一度を興するも、マラーが面白くなったのは二十代、シラタコは三教年、芭蕉無料、漱石の弟子といふたの人の真面目な近かつたも近頃、この学生通信は足掛六年、五十路半ばの初挑戦とい経験をして頂いた! オペラも「これからは極める」! 小さな人生、長い苦も悲もあるが喜樂行つ! わかるまで待つ、気長に待って生きて、結構築いて(石上薬師持)